

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第34週 (8/21-8/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		34週	33週	32週	31週
小児科		18	18	16	18
眼科		5	4	3	5
インフルエンザ*		28	28	20	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
 下段:定点当たりの患者数
 「定点当たりの患者数」とは
 報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉県				千葉県
			8/21-8/27	8/14-8/20	8/7-8/13	7/31-8/6	8/14-8/20
			34週	33週	32週	31週	33週
小児科	RSウイルス感染症	◎	26 1.44	11 0.61	11 0.69	13 0.72	130 0.98
	咽頭結膜熱		5 0.28	6 0.33	4 0.25	5 0.28	63 0.47
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18 1.00	12 0.67	21 1.31	29 1.61	125 0.94
	感染性胃腸炎		44 2.44	39 2.17	44 2.75	64 3.56	269 2.02
	水痘		3 0.17	2 0.11	2 0.13	5 0.28	23 0.17
	手足口病	◎★★★	149 8.28	100 5.56	128 8.00	162 9.00	731 5.50
	伝染性紅斑		0 0.00	1 0.06	0 0.00	16 0.89	4 0.03
	突発性発しん		15 0.83	14 0.78	10 0.63	9 0.50	41 0.31
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ	○★	43 2.39	36 2.00	82 5.13	133 7.39	231 1.74
流行性耳下腺炎		7 0.39	2 0.11	2 0.13	6 0.33	19 0.14	
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4 0.14	4 0.14	15 0.75	13 0.46	26 0.12
	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
眼科	流行性角結膜炎		4 0.80	1 0.25	4 1.33	0 0.00	18 0.53
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
基幹定点	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 1.11
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査	アメーバ赤痢	男性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	40歳代	IGRA検査等				
腸管出血性大腸菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出
	女性	10歳未満					
	女性	20歳代		梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
	女性	30歳代					

・第34週は、結核4件(147)、腸管出血性大腸菌感染症4件(20)、レジオネラ症1件(5)、アメーバ赤痢1件(4)、急性脳炎1件(17)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(2)、梅毒2件(22)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第34週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し1.44となった。過去10年の同時期と比べると最多。

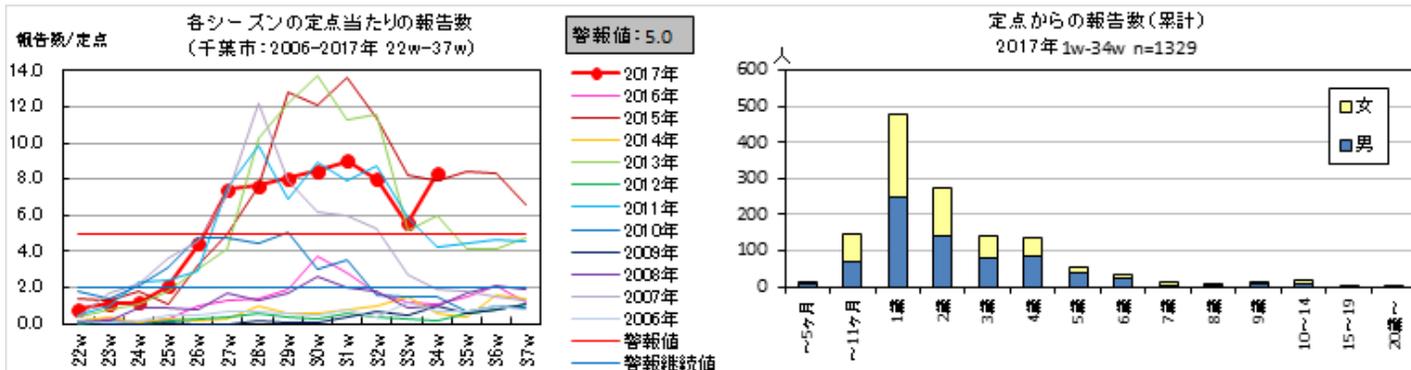
＜手足口病＞前週より増加し8.24となり流行発生警報開始基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると最多。

＜ヘルパンギーナ＞前週より増加し2.39となった。流行発生警報終了基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

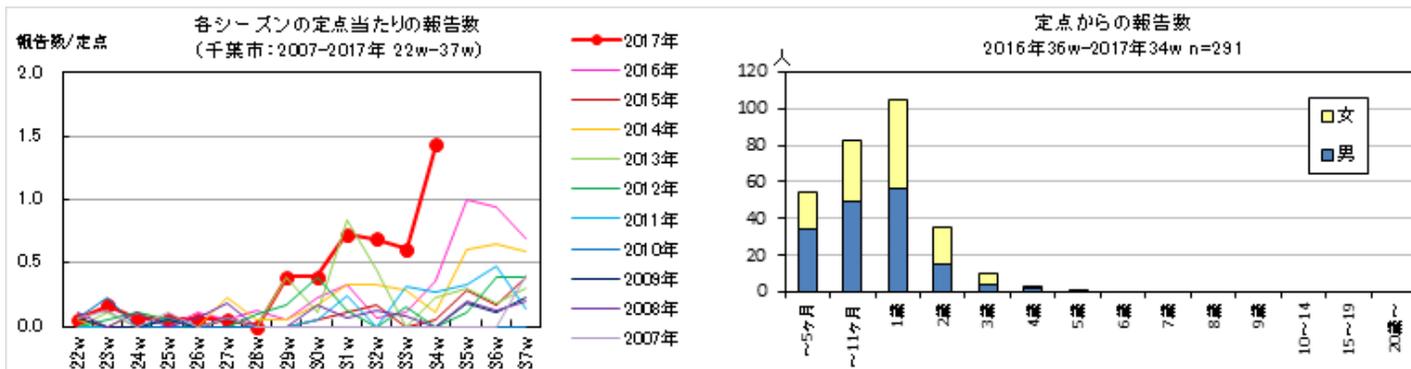
<手足口病>

全国レベルの第34週は、過去9年の同時期と比べると多く、流行発生警報開始基準値を上回ったままとなっています。都道府県別では、長野県、新潟県、山形県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第34週は前週より増加に転じ8.24となりました。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(16.3/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳及び2歳で最も多く発生報告がありました。他に若葉区、緑区及び中央区で流行発生警報開始基準値を上回っています。2017年第1週から第34週までの累積報告数(n=1329)によると、性別では男性が54.0%(718名)、女性が46.0%(611名)で、年齢階級別では1歳(36.0%:479名)、2歳(20.6%:274名)、6か月～11か月(11.1%:147名)の順に多くなっています。



<RSウイルス感染症>

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第33週も同様に過去10年の同時期と比べると平均+2SDを大幅に上回り大変流行している状況となっています。都道府県別では新潟県、福島県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の2017年第34週は前週より増加に転じ1.44となりました。過去10年の同時期と比べると最多のままとなっており、平均+2SDを大幅に上回り大きな流行となっています。区別の発生状況は、緑区(2.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第34週までの累積報告数(n=291)によると、性別では男性が55.3%(161名)、女性が44.7%(130名)で、年齢階級別では1歳(36.1%:105名)、6～11か月(28.5%:83名)、0～5か月(18.6%:54名)の順に多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの2017年第33週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では宮崎県、山形県、熊本県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べて多めとなっています。千葉市の2017年第34週は前週より増加に転じ2.39となりました。流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(4.33/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最も多く、同区の2歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。他に若葉区及び中央区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第34週までの累積報告数(n=884)によると、性別では男性が51.5%(455名)、女性が48.5%(429名)で、年齢階級別では1歳(31.2%:276名)、2歳(21.5%:190名)、3歳(13.7%:121名)の順に多くなっています。

